

ICTスタートアップリーグとは？ 公式サイト <https://ict.startupleague.go.jp/>

ICTスタートアップリーグは令和5年度からスタートした、総務省「スタートアップ創出型萌芽的研究開発支援事業」を契機とし、総務省とスタートアップに知見のある有識者、企業、団体などの民間が一体となり、ICT分野におけるスタートアップの起業と成長に必要な支援と競争の場を提供するプログラムです。

- 出資とリターンを求めるだけの支援ではなく、中長期ビジョンという観点で、
 - 伴走支援や人材紹介、そして国費によるサポートを行う「支援」
 - VCのマッチングやピッチの機会を用意し更なる飛躍をサポートする「出資」
 - 自身のビジネスに磨きをかけるための「競争」
 - 取組を多くの人に知ってもらい、応募者を増やし、またスタートアップへの憧れを醸成するための「発信」
- の4つを軸にスタートアップエコシステムを構築し官民一体となってリーグとして支援を展開します。



ICT STARTUP LEAGUE



↑千葉工業大学 学長で運営委員会の伊藤 穰氏は「真剣に楽しくやっていければ」と話す。



↑AIを用いたサービスを開発する企業から、VRを用いた疼痛管理などヘルステック分野まで、ジャンルは幅広い。



↑最後は関係者全員で記念撮影を行なった。

**世界的企業の創出を
官民一体で支援する**

UPDATE EARTHはデロイトトーマツグループが主導するイノベーションプログラムで、2024年3月2日に群馬県前橋市で開催。次回も地方都市で開催する予定があるとのこと、先進的なイノベーションと消費者のタッチポイントとしての役割を兼ねることが期待される。

千葉工業大学学長で運営委員会メンバーの一人である伊藤穰一氏は「スタートアップはエコシステムで、色々なバリエーションから成り立つが、一番大事なのは人。サポートはするが甘やかさない、楽しそうだが程よい緊張感が大切。真剣に楽しくやっていければ」と、支援における姿勢を示した。

採択を受けた26件のジャンルは多種多様だ。ブロックチェーン技術を用いて「待ち時間」を価値に変換するというコンセプトのアプリ「Matiwabi」を開発するMetiown株式会社の代表取締役、田中一弘氏は「創業して1年目の若いスタートアップなので、このリーグでは皆さんに学びながら、いいアプリの開発を進めていきたい」と意気込みを新たにした。

スタートアップ企業を対象としたアクセラレーションプログラムや採択型の支援事業は、近年盛り上がりを見せているものの、単一の企業や行政機関が主催するケースが多かった。官民が協力し大規模で強力な支援を長期間提供するという点で、ICTスタートアップリーグは革新的だ。

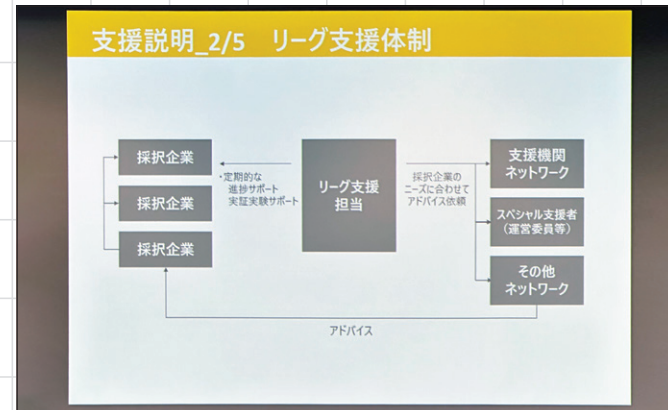
総務省でICTスタートアップリーグを担当する松井正幸技術政策課長は「素晴らしいプロジェクトの場に参加させていただけるところを嬉しく思う。このリーグは、採択者の皆さんと、総務省が一緒に成長していくのが大切だと思っている。採択者、総務省だけでなく、関係省庁や民間団体などとも連携して進めていくことで、日本全体の状況を変えていくのではないかとコメント。

また、総務省の近藤玲子大臣官房審議官は「これからICTの分野で日本を元気にしていかなければならない状況の中、斬新なアイデアを持つ皆さんが揃ってくれ、力強く思っている。総務省としてもICTスタートアップリーグを通じてスタートアップ企業を支援しながら、皆さんと一緒に日本を元気にしたい」と語る。

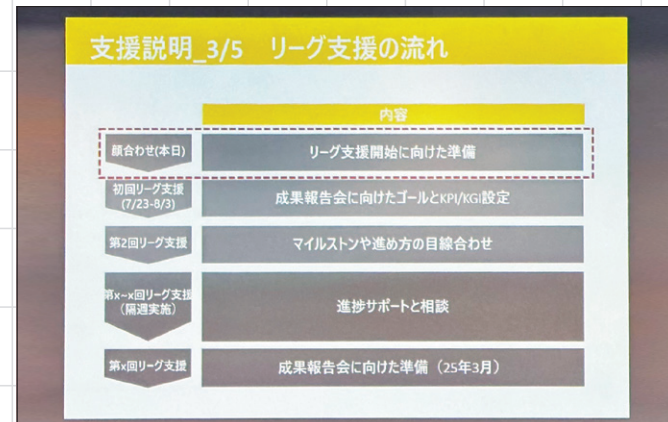
キックオフでは採択者と運営委員会、総務省の担当メンバー、会場関係者によるネットワーキングも実施。起業と成長に必要な支援と競争の場を提供するICTスタートアップリーグ。世界に羽ばたく「選手」の誕生が期待される。

ICT STARTUP LEAGUE

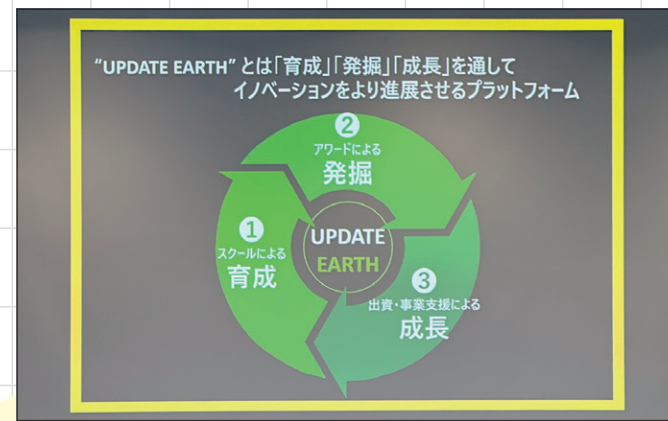
ICTスタートアップリーグ2024 採択者や支援者などリーグ関係者が キックオフイベントに一堂集結！



↑「ICTスタートアップリーグ」の支援体制。



↑採択者は、今後2025年3月の成果報告会に向けてプロジェクトを進める。



↑「UPDATE EARTH」ブース出展も行われる予定だ。

**充実の支援内容で
事業成長をサポート**

2023年度からスタートした「ICTスタートアップリーグ」第2期のキックオフイベントが2024年7月19日に都内で開催され、今年度の採択者をはじめ、総務省や運営委員会などのリーグ関係者が一堂に会した。ICTスタートアップリーグは、スタートアップ文化を日本に根付かせることを目的に、官民が一体となって一過性ではなく長期的な支援を行うプログラム。今年度の採択者は、昨年度を上回る383件の応募の中からスタートアップに知見のある有識者による審査の過

程を経て26件が選出された。採択者は、2025年3月まで自身のビジネスを飛躍させていくための支援を受けることができる。支援内容は、最大2000万円の開発支援金のほか、専門家による起業・開発・実用化への助言、人材確保のサポート、ピッチやマッチングイベントの開催、実用化にかかわる事務的な支援、開発や起業ノウハウに関する勉強会など。

具体的には、開発の段階ではアイデアの整理、コンセプトの設計、顧客テストによる検証やその後の計画の策定、PR・マーケティングの分野では、資料の作成支援や媒体（新聞、ウェブ、雑誌、テレビ）における発信など、支援はきめ細かい。今後はまず、2025年3月の成果報告会に向けたゴールとKPI（重要業績評価指標）／KGI（重要目標達成指標）の設定が行われる予定だ。現時点では走り出したばかりのスタートアップ企業が、ICTスタートアップリーグを通じてどのような成長を遂げるのかに注目が集まる。

なお、2025年3月の成果報告会とは別に、2025年の2～3月に実施予定の全国規模の起業家育成プロジェクト「UPDATE EARTH」では、今回の成果発表を兼ねて採択者のブース出展も行われる。